

第5学年 算数科学習指導案

日 時：令和元年6月10日（月）5校時

場 所：

授業者：

1. 単元名 「5 小数のわり算」(全14時間)

2. 単元について

本単元の構成と学習指導要領との関連は、次のようになっている。

A (3)

小数の乗法及び除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 乗数や除数が小数である場合の小数の乗法及び除法の意味についてを理解すること。

(イ) 小数の乗法及び除法の計算ができること。また、余りの大きさについて理解すること。

(ウ) 小数の乗法及び除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 乗法及び除法の意味に着目し、乗数や除数が小数である場合まで範囲を広げて乗法及び除法の意味を捉え直すとともに、それらの計算の仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりすること。

第4学年では、小数の乗法及び除法について、数のまとまりに着目して、被乗数、被除数が小数の場合の乗法や除法、ある量の何倍かを表すのに小数を用いることに関して指導してきた。

第5学年では、乗数、除数が小数の場合にも乗法や除法が用いられるように意味を広げることをねらいとしている。その際に、整数の場合の計算の意味や計算の仕方を活用して、新しい計算の仕方をつくることができるようにし、学習したことを生活や学習に活用する態度を養うことを、単元を通して行っていきたいと考える。

本時の指導にあたっては、1あたりの大きさを求めるという説明で除法を捉えることに難しさがあるため、数直線を用いて考えられるようにする。また、「除法の計算で、除数及び被除数に同じ数をかけても商は変わらない」という除法に関して成り立つ性質を生かして、計算の仕方を考えられるようにする。

3 児童の実態

本校5年生は、男児7人、女児5人の12人学級である。算数に苦手意識をもっている児童が多く、全体で交流することに消極的な姿もみられる。しかし、ペア交流では意欲的に仲間に自分の意見を伝えようとする姿がある。問題1で学習したことを使って、問題2を解こうとする姿がみられる。

活動の速さや習熟度に個人差がみられるため、机間指導を効果的に行いながら、どの児童も考えをもって、それを表出できるような手立てを考えたい。

「小数のかけ算」の単元では、数直線をもとにして立式したり、説明をしたりして、答えを求めてきた。しかし、児童の中には数直線の見方がよく分からないため、正しく書いたり活用したりできない児童もいた。

レディネステストでは、第4学年で学習した小数÷整数の計算が正確にできたのは、児童の約半数だった。また、わり算のきまりを理解し適用できた児童は約4割であり、事前に復習しておく必要性を感じた。

4 研究テーマとの関わり

令和元年度 郡上市教育研究会 算数部会

研究テーマ「数学的な思考力・表現力を高める指導のあり方

～目指す姿とそれに迫る数学的活動の明確化（重点）～

次のような指導を行えば、**数学的な思考力・表現力をもとに考える児童を育てることができる。**

- ① **前後の学年や領域等の系統性を踏まえ、単元や単位時間における数学的な思考力・表現力を明確にし、意図的、計画的な手立てを明らかにした数学的活動を行う。**

本単元では、図・式・ことばでつなぐ学び方を単元指導計画に位置付け、除法の意味の拡張や小数でわる計算の筆算形式を理解させる指導を行う。本時は、「見通し（方法・答え）をもたせる指導」を行う。

〈見通しをもたせる指導〉

問題把握後に、「何を使えば、はっきりできそうですか。」と問いかけて、どの子も方法の見通しをもって、課題解決にむかえるようにする。また、単元を始める前に、レディネステストと既習のまとめを行うことで、考えの見通しをもてるようにする。

数直線図で答えの見通しをもってから、個人追究を行うようにする。

- ② **数学的な思考力・表現力を働かせて、筋道を立てて考えたり、総合的・発展的に考えたりする力が育っているかを、どの場面でどのように見届けるのかを焦点化し、指導改善を図る。**

〈問題2を設定し、定着状況を見届ける〉

問題1で明らかになった「数理的な処理のよさ」を広げたり、深めたり、たしかにしたりするために問題2を設定し、そのあとにペア交流を位置付ける。（全員が必ず考えを表出できるようにする。）ペア交流では、数学的な見方・考え方の視点を与えて交流をする。問題2は、問題1で確かにした考え方を試すものとして位置付けるため、全体交流は行わない。